

熊谷市ムサシトミヨ保護センターについて

行田市民大学第5期生環境グループ I

はじめに

ムサシトミヨは世界で唯一熊谷市の元荒川の源流部からの最上流部にのみ生息する魚で、雄が子育てする珍しいトゲウオの仲間である。この魚はトゲウオ科のトミヨ属に分類され、体長約5cmで冷たく澄んだ川に生息している。雄が水草のコカナダモなどを材料としてピンポン球くらいの巣を作り、そこに雌を招き入れて産卵（卵 50 個程の卵塊）させ、雄がひれで新鮮な水を送り孵化させる。また、卵を他のムサシトミヨに食べられないように守るのも雄である。とげが背に8~9、胸びれに1対、尾びれに1本。寿命は1年。

今では埼玉県県の魚に選定され、県内希少野生動植物に指定、捕獲は禁止されている。元荒川の源流部から400メートルの区間が県の指定文化財天然記念物元荒川ムサシトミヨ生息地に指定されている。

埼玉県や熊谷市がムサシトミヨ保護センターの試験池で増殖・研究しているだけでなく市内の小・中学校、「熊谷市ムサシトミヨを守る会」の会員や市民・協力者によって流水の浄化や水草の管理等保護活動が進められている

※ムサシトミヨは絶滅危惧種(1A類)として、環境省編のレッドデータブックにも掲載されている。

- 1 見学日時…平成26年6月20日(金)、14:15~16:30
- 2 管理者……埼玉県・環境科学国際センター、熊谷市・環境政策課
- 3 場 所……埼玉県熊谷市久下2148-1 埼玉県熊谷市佐谷田4044
- 4 予約連絡先:熊谷市環境政策課 環境政策係
- 5 参加者……第5期生環境グループ9名
- 6 見学会の対応者……熊谷市・環境政策課、ムサシトミヨを守る会:会長

II 施設の現状

- 1 従業員……市1名、水質管理臨時雇用者1名
- 2 水 源……日量6000m³の地下水を汲み上げている。

(水中ポンプ150A×2. 1ト/分×3台(内1台は予備))

24時間連続運転→停電時には1台が自家発電機で自動的に起動→断水は許されない。(清流で水温10~18℃の保持を必要とする。……それを試験池に注水、危険分散のため2000匹を飼育している。……その後元荒川に放水、ムサシトミヨの自然繁殖の流水となっている。

この魚は本来、冷水環境の東北、北海道に生息するもので、熊谷市元荒川は南限に当たる。

※行田市の水道使用量(県水:約 11,900m³/日、地下水:約 15,500m³/日)であり、 $6,000/15,500=0.39$ →行田市水道(内、地下水使用量)の約40%に相当し、決して少ない水量ではない。

また、生活排水の流入防止対策も実施されている……合併浄化槽(市、県、国の補助)による。

- 3 管理……県組織の再編で、元埼玉県農林総合研究センター水産研究所熊谷試験池が閉鎖され、ポンプ管理および実験池・実験室は県が管理継続、管理研究用施設は熊谷市に移管し、ムサシトミヨ研究は県環境科学国際センターに移管した。2004年10月1日、管理研究用施設が「熊谷市ムサシトミヨ保護センター」に生まれ変わった。ムサシトミヨ研究が今でも続けられているほか、市民グループ「熊谷市ムサシトミヨを守る会」の活動拠点としても利用されている。
- 4 特徴……荒川流域の豊富な地下水を利用している。

Ⅲ 1 経過 30年前…600匹、2002年…30,000匹、2007年…15,000匹に半減(元荒川沿いの住宅化、日光が当たらず水草が減少した)。

2011年…26,600匹に回復

自然を壊すのは簡単だが、守っていくのは困難を伴う。

- 2 他に観察されたおもな動植物 アメリカザリガニ、バイカモ、コカナダモ、ミクリ
- 3 写真



水草の繁茂する元荒川



生息するアメリカザリガニ



試験池地下水の元荒川流入付近



生息地の看板



水草保護の看板



水槽内のムサシトミヨ



水槽内のムサシトミヨを観察



コカナダモの看板



源流付近の元荒川の流れ



県指定天然記念物・元荒川ムサシトミヨ生息地